



# 2024.5 No.468 MONTHLY MITSUBA

## 目次

『気づく安全文化を築こう』	…庄田	P.1-2
『年度の始まりに思うところ』	…菊池	P.3
『家族が安心できる職場へ』	…齋藤	P.3-4
『小山の働き方改革 2024』	…佐藤	P.4-5
『能力をのばす働き方改革』	…川島	P.5-6
『積み重ねが安全への架け橋』	…森	P.6
『機械に強い事業所へ』	…荒田	P.6-7
『「想定外」を減らす取り組み』	…大塚	P.7-8
『6回戦橋梁切替が幕開け』	…大宮	P.8-9
『強い館林へチャレンジの年に』	…大野	P.9
『計画的な工程作成の成果』	…成田	P.10

## 気づく安全文化を築こう

維新建設(株) 代表取締役 庄田 雅直



### ○切替工事のお礼

5月の連休が終わり、7月20日からの酷暑期に向けた計画工事を安全最優先で進めていると思います。また、今年は連休の前後となる4月28日に「古利根橋梁の架け替えに伴う線路

切替工事」を、続いて5月11日に「春日部駅高架化に伴う線路切替工事」を両工事とも予定通りに終わることが出来ました。これは、古利根橋梁の現場を担当した館林・小山事業所社員、また春日部の現場を担当した館林事業所社員の地道な努力と、切替工事に応援を頂いた「菅原興業(株)、(株)日総建、さとう興業(有)、(有)槻木沢軌道工業」の皆様、そしてグループ会社である高崎建設(株)、共立建設(株)の皆様とフィールドを共にし、総勢200名を超えるメンバーで力を合わせてゴールを目指した成果だと思っています。あらためて、紙面の場を借り御礼申し上げます。

### ○全国安全週間を迎えるにあたり

さて、今年も7月1日から7日までの「全国安全週間」に向けて、6月から準備月間に入ります。今年のスローガンは、『危険に気付くあなたの目 そして摘み取る危険の芽 みんなで築く職場の安全』となっています。このスローガンについて、私たちの仕事に照らし合わせながら考えていきましょう。

### ■まずは危険に気づくこと

私たちは、仕事へ取りかかる前に現場へ出向き必要な情報を収集します。例えば、施工は上り線？下り線？作業時間は？人数と資格者は？2重安全措置・保安体制は？線路への立入り箇所は？締結装置の種類は？重機作業の有無は？横断ケーブルなど支障物の有無は？相番・競合の有無は？といった感じで、さながら安全という教科の試験問題に、視覚と経験から算出した回答を埋めていくイメージが当てはまると考えています。そして、この安全試験のポイントは

加算方式となっています。さらに付け加えると、チーム戦であるため全員で問題を作成して答えを協議することが可能となりますが、チーム全員が納得した答えを出すことが条件であることをルールとして押さえておきましょう。当然ながら、安全成績の加点を増やすためには問題数を増やす必要があります。そこで、作業における潜在リスクをチーム内で多く想定して問題数を増やしていくこと、すなわち多くの危険に気づくことが安全成績の向上を考える上で最も重要だと考えています。

### ■危険の芽を摘み取るために

前段の続きとなりますが、チームで気づいた危険に対して協議を重ね全員が納得できる対策を導くためにもチーム力が問われます。それには、ベテラン社員の存在がひとつの鍵となります。若手社員らとベテラン社員とでチームを編成した場合、若手社員は柔軟な目線や思考により様々な疑問を持つ傾向があります。また、ベテラン社員となると(過去の失敗)+(成功体験)×キャリアといった経験工学の数式を解答とする傾向があります。このことにより、両者による経験の違いから“作業の勘どころ”や“作業手順・施工方法”において施工のイメージに違いが出ることもあり、それに伴って安全対策の考えにズレが生じることもあります。そこで、新たな工具の開発や他機関からの導入、有効な仮設設備・安全設備の構築、機械施工の導入、デジタル化による危険の見える化といった柔軟な発想と情報収集に長けた若手社員からの意見と、仕事の勘どころを熟知した経験論者のベテラン社員らによるハイブリットな安全対策がチーム力を高めるために有効だと考えています。まとめると、“潜在する危険”から“顕在する安全”を確保することが重要で、それには若手社員らがベテラン社員の持つ経験を活用しながら、チーム全員がなるほど！といった納得感のある安全の気づきこそ、危険の芽を摘む力を組織として高めることとなります。

### ○切替工事で高めた安全を基準とする

冒頭の切替工事を振り返ってみると、失敗は絶対に許されない上位工事として時間工程の根拠を立て、想定されるリスク要因を徹底的に洗い出し詳細な対策を打ち立て、なおかつ切替当日の作業量を軽減させ、入念な準備作業に時間を費やすおかげで成功裡におさまっています。これは過去の切替工事も同じことが言えます。また、成功した切替工事後にクロージングとして次回に対処すべき課題を洗い出し、より安全な切替工事のステップアップとしてきました。つまり、過去からのデータを繋いであらゆるリスクを洗い出し想定外を想定内とする取り組みが必ず成功させる切替工事の醍醐味となります。当たり前ですが、私たちの安全に対する姿勢は切替工事であっても通常の仕事でも同じことだと言えます。ですから、切替工事前の意識やモチベーションのまま道具の塗色や手入れを怠らず、新たな工種や不安を抱えた作業にはリハーサルや試験施工、技術訓練を介入させ緊張感を持ちながら仕事に臨まなければなりません。今年も安全週間を迎えるにあたり、大会スローガンである「危険への気づきと備えに力を入れて取り組む」ことは、すなわち“安全はすべてに優先する”精神と同じ意味であると認識を高め、全社員と共に私たちの安全を考えていきたいと思えます。

## 年度の始まりに思うところ

次長 菊池 純一

▶ 廻しボンドと短絡防護で行う線路移設（春日部3班）



維新建設では2023年度、線路関係での重大な事故ケガを起こさず無事に終わることが出来ました。ただ重大ではないにしても少なくとも10件の事故やケガが発生しております。その内訳は現場作業中に起こった事故が3件、傷害事故が1件、そして車両にまつわる事故が6件となっております。とくに、6件発生した交通事故のうち、一步間違えれば死亡事故に繋がる事故が1件ありましたが、運転手も含め掠り傷程度で済んだことは本当に運が良かったとしか言いようがありません。私も含め社員の方たちは、自分の命と仲間の命を守る、そして相手の命を守るという心構えで日々の運転を行うようにしてください。自分の運転に関し

ては大丈夫！なんていう根拠のない大丈夫は今すぐ捨ててください。

線路作業でのトラブルは3件の事象がありました。そのなかで作業の簡略化（悪く言うと手抜き作業）によるレール運搬トラブルがありましたが、今回の件だけに限らず、作業手順の簡略化については過去の成功体験があるがゆえに「今までこのやり方で事故ケガもなくうまくいっていたので今回も大丈夫だろう」という安易な考えで作業を行ってしまった挙句、やらかしてしまうパターンは今回だけではなく過去も含め多少なりとありました。

2024年度、維新建設では年度初めから大掛かりな作業が目白押しとなっております。そんな時だからこそ通常の作業を行うにあたり足元を掬われぬように「今までこのやり方で事故ケガもなくうまくいっていたので今回も大丈夫だろう」とは思わず、一つひとつの作業に対して事前の打ち合わせで作業環境・作業手順・作業リスクをよく検討してもらい、日々の作業を熟してもらいたいと思います。その結果、昨年度より一つでも多く事故やケガを減らして貰えればと思います。

## 家族が安心できる職場へ

小山事業所 所長 齋藤 忍

ベストモデル2年目の重点実施項目である現場調査時の動画撮影について焦点を当ててお話ししたいと思います。なぜ動画撮影を思いついたかですが、今年度はB点呼時に行うKY活動に強い拘りを持ちたいからです。皆さん、B点呼で行っているKY活動時のシーンを思い出してください。思い出されたなら私が今から言うことが安易に想像できてしまうと思います。一言でいえばマンネリ化しています。原因としてはいつも出る危険予知内容は定型文だから。対策もお決まりの言葉。この二つの定型文がマンネリ化の最大の要因だと私は考えました。

なぜ、お決まりの言葉が飛び交うのでしょうか。①現場の立地を想像出来ていない②今から行う作業で危険な目に遭ったことが無い、または見かけたことが無い③想像は出来ているが言



古利根橋りよう切替工事で感謝状



葉にするのが難しい④早く点呼を終わらせた、などの理由があると思います。①について考えると、出した答えが現場状況の動画でした。各々の記憶に頼り、古い情報ではなく直近の現場状況を可視化することが出来れば、発言する危険予知も

自ずと件数や具体的な発言が増えると思いました。③については、発言する立場と発言を受け止める側の両方のスキルアップが必要です。発言する人は動画や経験を題材に、予知した危険を自分なりの言葉でいいので相手に伝える。伝える場合は、言葉が長いとか書くのが大変だろうな・・・と言った気遣いは不要です。そして一番大変なのは意見を受け止める側です。出てきた意見を相手の気持ちを汲み取ってまとめなくてははいけません。ですから発言する人は、しっかりと現場を想像して現場の立地と作業に寄り添った具体的な危険を見つけてほしいです。

色々ゴチャゴチャ書きましたが、一番はいかに現場を想像したKY活動が出来るかです。その日の作業と現場を想像してください。何気なく「行ってきます」「ただいま」「おはよう」「おやすみ」家族に向けた言葉。仲間には「ういつす!」「おはよう」「お疲れ様」など、いつも通りの日常を。列車を止めたとか、加工ミスをしたとかは帰りが遅くなっても上記の言葉は無くならない。しかし、ケガや万が一の時はこのいつもの言葉が無くなります。現場だけではなく、現場の行き帰りの通勤でも同じです。そんな当たり前の言葉を無くさないように、今年現場を想像することへ重点を置いたベストモデルに拘りたいと思います。

## 小山の働き方改革 2024

小山事業所 副所長 佐藤 卓弥

個人の勤怠状況が確認できる勤務指定表

	5 金		6 土		7 日		8 月		9 火		管理目標 時間 45.0H
	昼	夜	昼	夜	昼	夜	昼	夜	昼	夜	
1 A 社員さん	E 4.75	2 3	B 6.5	2 3	休	休	所	所	D 6	2 3	26.25
2 B 社員さん	E 4.75	2 3	所	所	休	休	E 4.75	1 4	D 6	1 4	26.50
3 C 社員さん	所	所	B 6.5	1 4	休	休	D 6	1 4	D 6	1 4	30.50
4 D 社員さん	C 7.5	2 3	E 4.75	2 3	休	休	E 4.75	2 3	所	所	26.00

4月より維新建設小山事業所の副所長に就任いたしました佐藤卓弥です。勤怠管理・番割・作業工程の調整をメインに仕事をしております。そのなかでも勤怠管理については働き方改革のこともあり、とくに力を入れています。至らない点もあるかと思いますが、一生

懸命努めますので皆さんよろしくお願い致します。

今回の社報では、小山事業所のベストモデルについて副所長として改めて考えてみました。小山事業所のベストモデル『作業環境と品質・時間にとことん拘る』をテーマに活動して、今年度で2年目となります。1年前を振り返りますと、作業環境の改善では仮設階段の設置や電動工具の導入により作業員の負担軽減など目で見えて分かるほどの成果があったと思います。しかし活動を続けていくと弱点や改善点なども出てきました。例えば、KY活動のマンネリ化や



軌道工のスキルダウンなど、現場作業時の想像力低下等が原因で失われていったことが判明しました。私自身も KY 活動などは定型文みたいな感じでもいいと思っていました。しかし、副所長になり齋藤所長と話を重ねるうちに現状のままでは必ず大きな事故に繋がるかもしれないということに気がつかされました。

そのため、1年目での弱点を打破するために2年目では小集団組織の見直しにより、人財共育G、現場安全管理Gの管理監督や現場の特情把握のために、現場現調のDX化などを進めていきます。現場での想像力が膨らめば緊急時の対応やリスクの察知などにつながり、日々の作業で行われるKY活動や変化点などにも活かされると思い活動を続けていきます。

## 能力をのぼす働き方改革

宇都宮事業所 所長 川島 健路

寒い環境での夜間作業も季節が変わり、新年度工事も本腰を入れる時期を迎えてきます。我々も酷暑期前にやれる仕事を安全にこなし、この一年の勢いをつけて行きたいと思います。以前から取り組んでいる仕事の機械化を主軸に、人力負担の軽減や人員の削減、また、機械化による作業の安全性向上を提案しつつ、スキルアップを進めていきます。他所における

機械化の実績を参考に取り入れることはもちろん、実践してみたの改良点・改善点をその都度、検討しこちらからご提案していける組織づくりを引き続き強化していきます。

今後は、働き方改革にもさらに強固に取り組まなければならない、その状況は元請や発注者様も同じ課題であるため、我々としては線閉責任者や各種オペレーター・検修業務など、これまで以上に有資格者の層を厚くしていくことも求められます。それにより、より多くの仕事量を確保することが当然の目標ですが、お受けできる仕事の幅を広げ、さらには安全施工により信頼を得たうえで任せて頂ける業務の拡大に繋げて行こうと考えています。もうすでに、仕事と休暇のON・OFFを色濃く明確にして計画的に月の仕事をこなしていく時代に入っています。「仕事する日が減ると稼げない」と嘆くのではなく、是非、各々がスキルアップに意欲的になってもらい『手に職をつける』ことを目指してもらいたいと思っています。しかし、層を厚くすることによる落とし穴も必ず存在するので、そこは上位職である管理者や責任者・もつとと言うと保安要員がしっかりと現場を見渡せる力をつけて安全職場を構築していきましょう。

5月休み明け事故防止会議の際には、鉄道3大災害『触車・墜落・感電』の話しがクローズアップされており、また昨今は線路設備の老朽化や修繕不備による輸送障害も目立っています。保安体制遵守や保護具の完全着用もさることながら、ここにも私たちプロの目による意識の向け処が着目されており、気づく力に言わば挑戦していかなければならないのだと感じました。

これから気候は暑さを増すばかりとなり、例年通り熱中症も懸念される季節に入ります、温

4月  
から  
キャリア  
アップ  
システム  
での  
勤怠  
管理  
が  
本格  
スタート



度上昇期も対策を行いながらの作業が続きます。日々の計画にも『働く⇔休む』のメリハリをつけられるよう計画側は努力しますので、所員の皆さんも是非、身体の負担に無理を感じたら声かけして頂き、こちらが気づかない点は意思表示できる風土を互いに構築していきましょう。

## 積み重ねが安全への架け橋

▶ 新型ホッパー車を使用し初の工  
砕石卸しを施工した宇都宮チーム



宇都宮事業所 副所長 森 和大  
新年度に入り、ベストモデルの冊子が配られたと思います。そこで、私なりの今年のベストモデルに対する思いを述べたいと思います。

宇都宮事業所は2024年度も変わらず『施工性向上への挑戦』と掲げました。これは3年後の目標として工事の機械化を画策し、安全で効率的な工法の提案や工事を検

討しPDCAを実行し、現場の完成形を各責任者がイメージできるようにするという事です。

一言で施工性向上というと、パッと思い浮かべるのが工事の機械化(社員の負担軽減)だと思っています。宇都宮エリアの仕事は、相変わらずと言っていいほど重機作業が日々少なくとも1現場は計画している状況です。2023年度からの実績で言うと、レール交換機を使用しているロングレール交換や道床交換では、アンダーカッター(アタッチメント)での施工などユニオン建設様と維新建設で提案や計画、訓練を重ね安全に完遂できています。これらは宇都宮事業所社員が一人ひとり、一つのことに真剣に取り組んでいる成果だと思っています。私が年頭に綴った社報のなかで『安全な現場に“やり直し”と“無駄”は無し』を述べました。交通安全の取り組みや出発前の道具の確認など、皆で取り組んでいることを継続して行ってこそ『挑戦』できる権利が得られると思います。

最後になりますが、そろそろ猛暑の夏が到来してきます。今年も熱中症対策を愚直に実行し事象を完封するために、今一度、皆の対策に対する思いと周囲からの目配り気配りをしっかりと行い猛暑を乗り切っていきましょう。また、2024年2月24日に発生した他社による墜落死亡事故を受けて、安全帯に関わらず、安全は誰のために守るのか?自分は事故なんて起こすわけがないと過信せず、今一度自分なりに考え行動しましょう。「現場に行ってきます」「帰社しました」と言われたら、「お疲れさま」と何気なく答えられる日々こそが、何より安全である証拠だと思っています。

## 機械に強い事業所へ

宇都宮事業所 副所長 荒田 智弘

宇都宮事業所のベストモデルである【施工性向上への挑戦】に仕組み2年目になります。

JR様・ユニオン建設様より安心して仕事を任せられる会社とは?第一に安全に力を入れている会社、そして機械化により施工実績の向上、品質の良い成果物を提供できる会社です。JR



様・ユニオン建設様に信頼され、仕事を受注するために、機械化の実績を積み改善提案をできるように個々の知識を高めていきましょう。そして、一つとして同じ現場はありませんから日々変化していく現場環境に対応していく力も必要不可欠になります。

それには、『ルールを守る』ルールの成り立ちを学び事象を繰り返さないことが大切です。三大

労働災害である触車・感電・墜落事故は絶対に起こしてはなりません。妥協することなく愚直に取り組んでいきましょう。また、ユニオン建設(株)宇都宮出張所大島所長様が安全パトロールで、線路に入る際の《保安体制》、線路から出るときの《仕上り確認》、《確実な跡確認の実施》をしっかりと行うようにと、お言葉をいただいています。しっかりと心に置き一つひとつの現場を施工しましょう。今後の取組みとしまして有資格者の拡充があります。これからは線閉責任者を維新建設の社員が携わる場面が増えていきます。ここでも、ルールをしっかりと学び安全な現場の構築に努めていきましょう。

続いて、昨年も掲げていましたが今年度も訓練と教育に力を入れていきます。重機作業がメインに OP の育成は重機×2 人を目標に進めていきます。問題なく現場を施工しているときはいいのですが、異常時の対応能力が会社の存在価値につながります。社長がいつも言われるように、「万が一の事態になったとき、〇分で復旧し列車を通せます」と言い切れるよう訓練を重ねていきます。あらゆる場面を想定することで想定外を想定内にする力となります。異常時対応能力向上に一丸となって取り組んでいきます。

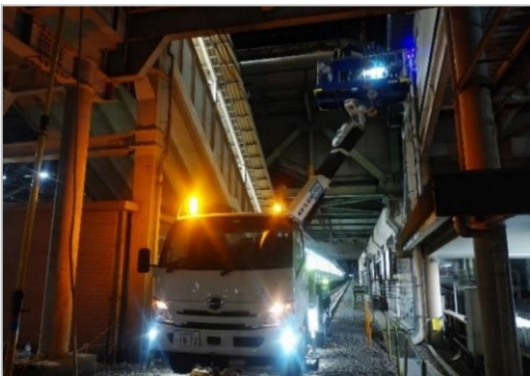
これから酷暑期に入ります。体調管理と熱中症対策をしっかりと行い体調不良者を出さない。体調が思わしくない社員は周りから声をかけ休ませるなど、責任者は仲間の体調をチェックし、この暑い大変な時期を乗りきりましょう。

## 「想定外」を減らす取り組み

古河事業所 所長 大塚 健治

2023 年度の古河事業所は、ユニオン建設様より多くの仕事を頂き、さらなる「ステップ UP」につながりました。「極小橋梁」「耐震補強工事」「東北・上越新幹線ホーム修繕」など、未経験の工種・施工方法などの習得につながり「10 年後の未来」へ向け一歩踏み出す形となりました。同時に小山事業所とタッグを組んで「耐震補強工事」に臨み、安定した 2 組同時施工を

行っています。そして、仲間たちが先取りしてきた「資格取得・技術習得」により正しい施工



方法の理解度も向上し、洗練されつつあります。

相番作業に於いて「他社で高所作業車が動作不能」に陥っても、慌てず当事業所社員が対応し現場を完遂させています。声かけに於いても、分け隔てなく躊躇せずその場で指摘し是正を行うところを見てきました。しかし、これらは自分たちが経験（事故や実体験）したことからの対策を理解し実践したにすぎません。環境・天候が変われば想定外の事象につながります。また危険予知について「工事管理者クラス」と「若年社員」では大きな格差があり、事故発生のリスクが激変します。私のように苦い経験から理解するのではなく、次の項目を推進します。

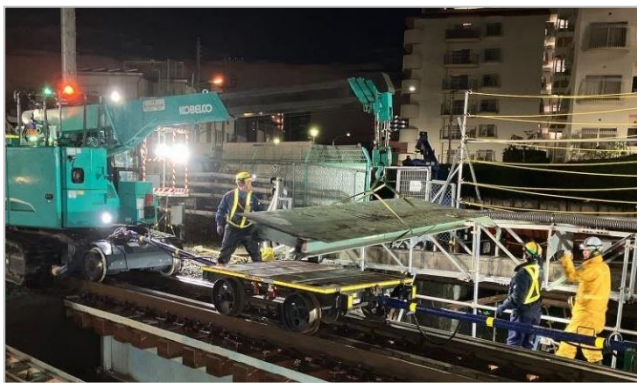
1. 「他山の石」で想定外を減らす
2. 「事故の低減」被害を最小限にする
3. 「発生頻度の低減」リスク対策を愚直に守る

現場は「工程管理」「品質管理」「安全管理」を成立させることが必須であり、上記3事項を当たり前と捉えず共有化を進めます。そして近日に迫る「蕨・南浦和間第2 蕨用水橋りょう改良その他工事」は線閉間合いが短く、保守用車を多数使用し作業員総勢55人で橋りょう撤去・有道床化の工事に臨みます。宇都宮事業所・小山事業所のご助力を頂き、入念な打合せを行い「仲間たちと一丸となって」無事完遂を目指します。

## 6 回戦橋梁切替が幕開け

古河事業所 担当所長 大宮 勇司

6/1  
切替に向けて橋側歩道の  
撤去作業（第2 蕨用水）



古河事業所では、今年度より大塚所長を筆頭に新体制でスタートしました。各担当者は慣れないながらも一生懸命に取り組み頑張っており、事業所を盛り上げてくれています。心配していた2023年度の売上げは、対前年比97%まで巻き返しましたが目標には届きませんでした。今年度は何とか売上げ

目標を超えられるように、上期から仕事をしっかり受注し全員で頑張っていきたいと思います。

本題の安全面に入ります。古河事業所では2021年車両センター通路せり上がり事象以降、線路内の事故事象は起こしていませんが、交通事故・車両トラブルが多く撲滅できていないのが実情です。一人ひとりの危険予知の想定が低く、意識の低さが一つの原因であると考えています。今年度は、大塚所長が各自の危険に対するハードルを高くし「想定外をなくす取り組み」を目標に掲げ『事故の低減（被害を減らす）』と「発生頻度の低減（不運に左右されない）」の両立を目指しているため、事業所全員で定期的な危険予知訓練や安全運転についての教育指導を行うなどして「想定外をなくす取り組み」に努力していきたいと思っております。

最後になりますが6月1日からいよいよ第2 蕨用水橋りょう桁撤去・有道床化工事が始まります。時間のないなかでの工事になるため各自、自分の役割をしっかり頭に入れ事前準備を



完璧に行い、無事故で切替工事を終了させましょう。維新建設の皆様もなにとぞご協力宜しくお願いします。

## 強い館林へチャレンジの年に

館林事業所 所長 大野 周平

昨年度の工事も無事に終わり、4月から2024年度上期工事が始まりました。毎年4月、5月は東武鉄道様の仕事が薄く苦しいスタートとなるため、昨年度は売上目標にあと一歩及ばず達成出来ませんでした。しかし今年度は、4月28日に古利根橋りょう切替工事、5月11日に春日部駅の切替工事と続き、忙しい年度始めのスタートとなりました。

この二つの切替工事を振り返ってみると、私が掲げている個々の技術力向上が弱いという点が浮き彫りになりました。技術力と言っても技術だけではなく、作業の流れや先読みをしながら声を出すといったことも含まれます。指揮者だけでは全部を見るには

限界があり、館林社員の一人ひとりが重要になってくるのです。やはり、日頃の修繕工事こそレベルアップする場所なので今年度はぜひ現場で力を養っていきましょう。

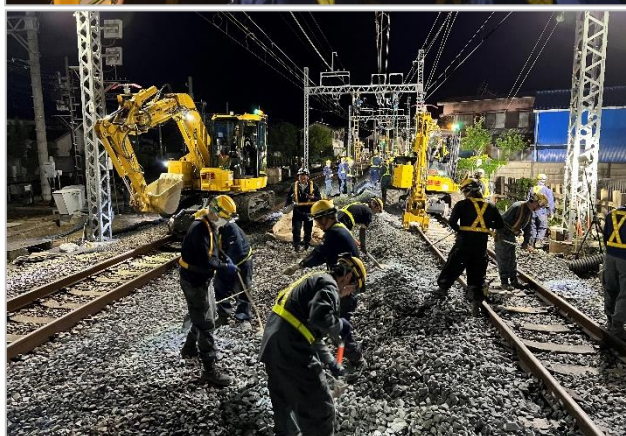
今年度の仕事には、9月に東武小泉線西小泉駅の切替があり連軌の仕事もあります。とくに目玉になるのが、接続ブロックの敷設です。これまで、館林事業所として連軌の床板更換は数多くこなし自信もつきましたが、ブロックの敷設は初めてになります。工具に関しては一式揃えたので残すは実践のみです。ブロックの敷設は下期工事になるので、訓練線を使って自信がつくまで繰り返し練習をしていきます。

重機オペレーターに関しては、BH、グリッパー、四頭、クレーンと、正規オペレーターはどこに出ても恥ずかしくないくらいの技術を持っています。しかし、準オペレーターはまだ育っていないというのが現状です。これからの時代、重機作業が必要不可欠になってくるので、重機作業+人力作業という作業の流れがもっと構築できれば、強い館林事業所へと成長できると思います。重機にしても、技術力にしても一朝一夕にはいかないですが、そこに向かって挑戦する意欲を持たなければ達成できません。館林事業所社員全員で、チャレンジ精神を持って今年度も頑張っていきたいと思います。

5/11  
春日部駅切替工事で  
班別点呼を執行する大野所長



春日部駅切替工事の様子（1班）



## 計画的な工程作成の成果

館林事業所 担当所長 成田 公治

維新建設社員の皆様、4月28日の古利根橋りょう切替工事、お疲れ様でした。無事に成功することが出来たのは、事業所や会社の垣根を超えて一致団結してくれた結果だと思っています。ありがとうございました。反省点については、これから洗い出していきますが、普段の修繕工事では見つけにくい弱点が見つかり、貴重な経験だったと思います。この反省点を全社員で共有し、技術向上訓練を活用しながら克服して、1年後の切替工事に向けてレベルアップしていきましょう。

さて、私は年頭に「2ヵ月先を見据えた計画的な工程打合せ」を自分自身に対しての課題として取り組んできました。2ヵ月先までの計画的な工程を作成、開示することによってどのようなメリットが生まれるのでしょうか？社員のみなさんも数年前と比べてみてください。

1、2ヵ月先まで各事業所の仕事量を共有し、調整することによって、売上高のアップ、就業日数の平準化、計画的な休日に繋がる

2、2ヵ月先の重機作業の工程を確定させ、月次検査や重機回送の予定を計画していくことで、重機トラブルや車両故障への備えとして余裕を持った点検の修理が可能となる

3、昼作業の工程を月間単位で作成することで、器具のメンテナンスや塗色を計画的に行え、器具の故障によるトラブルや置忘れ防止に繋がる

目的としては、現場の事故、トラブルを完封し、社員のみなさんが「幸せ」を感じられる会社にするためのです。「Web調整会議」を始めてまだ6ヵ月ほどで計画的に甘い部分もありますが、各事業所との連携体制を確立し、社員のみなさんが「働きやすい会社」にしていくことに尽力していきます。

最後になりますが、5月11日の春日部切替工事も終え、下期の9月には西小泉切替工事が控えています。維新建設全体で取り組み、その経験を糧にして皆でレベルアップしていきましょう。

### 連絡欄

